



Amir Tsarfati 氏 メッセージ 2018年4月2日公開 よみがえりの初穂

(日本時間4月3日午前3時)

皆さん、ガリラヤよりこんばんは。アミール・ツアルファティです。イスラエル時間でぴったり午後8時です。皆さんにメッセージをお伝えすることにホッとしています。大変うれしく思います。私にとって、これは勝利なのです。この週末の間中、様々な方面から激しい攻撃を受けていましたから。技術的な事、霊的な事、現実的な事、これは私が、復活に関するメッセージを伝えるのを止めようとする敵の働きだと、強く思います。ですから、私が今日行うことは、これを止めようとした敵の試みに対する勝利です。

まずは、世界中に存在する、二つの異なる欺きを認識するところから始めたいと思います。

①イエスは神ではない、というもので、これはユダヤ人だけでなく、エホバの証人のような“キリスト教系”と呼ばれる人たちの間でも伝えられている事です。聖書のいたるところに「イエスは神格の一部である」と書かれているにも関わらずです。当然、彼らを変えたのです。

②そしてもう一つは、私たちが目にする中でも、最も大きな欺きでしょう。

「イエスは、実際には一度もよみがえっていない」
というものです。

この二つが、あまりにも多くの人にとってのつまずきとなっています。彼らは、神がその御子を遣わされた、ということが実際に理解出来ず、神が人として私たちの間に住まれ、私たちが目にし、感じ、私たちが直面している試練を通られた、ということが理解出来ないのです。私たちの聖書は、こう告げています。

15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

(へブル4:15)

神が、ひとり子を遣わして、私たちの間を歩かれたとは、神がどれほど私たちのことを愛しておられるのか、それから人間の罪深い性質を、人はなかなか理解出来ないのです。それから二つ目の「イエスは一度もよみがえっていない」というのは、神ご自身が人として来られたということ、それから、ヨハネの福音書10章でイエスが言われたようなことが、人にはなかなか理解出来ないのです。

17 わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいませ。

18 だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

(ヨハネ10:17~18)

この、私たちのためにいのちを捨て、それをもう一度得ることが出来るという、神の明らかな特質、私は、こ

これは物凄い事だと思うのですが、人には、それがなかなか理解出来ないのです。

では、イエスのよみがえりの全貌、特記すべき話について語られた、ルカ 24 章から始めます。ルカ 24 章は、ルカの福音書の最後の章ですが、聖書は、次のように告げています。36 節。

36 こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

(ルカ 24:36 新共同訳)

これは、彼らの目の前で十字架にかかって死んだ、同じイエスです。彼らは、彼の体に油を塗って墓に葬り、ほぼ三日間、彼の死を嘆き悲しんだのです。ですから、彼らにとって、イエスが死んだというのは、確かな事でした。そのイエスが、彼らに「あなたがたに平和があるように」と言われたのです。

37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

38 するとイエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。私は持っています。」

(ルカ 24:37~39)

40 こう言って、イエスは手と足を見せられた。

(ルカ 24:40 新改訳 2017)

41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。

42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

(ルカ 24:41~43)

これは神ご自身が、人類に納得させようとされている、非常に珍しい場面です。語っておられる方が、その方であり、彼が言われた通りの方である、と。これは、肉と血を持った主なのだ、と。これはかなり感動的なことです。イエスは、彼の弟子たちに言っておられるのです。



カラバッチョ画 エマオの晩餐

「見てごらん。生きているのは、わたしの物語でもなく、わたしの神学でもなく、わたしの福音でも、わたし

のメッセージでもなく、これは“ポジティブ思考”でもなければ、他の何でもなく、わたし個人が活着しているのだ。あなたには、わたしが見え、あなたはわたしに触れることができる。あなたがたに、わたしが食べているところを見せよう。」

これは、特記すべきことですよ！イエスは、彼が死からよみがえったことを、彼の弟子たちに知らせたかったのです。これは考え方ではなく、哲学でもなく、神学でもない。彼個人が、肉体的に死からよみがえったのです。死からよみがえった後、肉体的に、彼はあの部屋に立たれたのです。そして肉体的に、イエスは「わたし

がそれである。」と言われたのです。

「わたしだ。どうして恐れるのか？」

そして聖書が、これまた物凄いの、聖書はこれを美化していません。聖書には、彼らが信じなかったと書かれています。彼らは霊を見ているのだと思った、と聖書は告げています。彼らは、それを霊だと思って、恐れたのです。念頭に置いておいてください。これは彼らが、すでに墓が空っぽなのを知った後ですよ。女たちが墓に行って、そこが空っぽであるのを見ましたが、誰も信じなかったのです。当時、女性といえば——だから、彼らは、自分たちで走って行って、自分たちの目で確かめたのです。ペテロとヨハネは、

「分かった。信じよう。」

と。この詳細のどれ一つとっても、これを美化しようとはしていません。福音書の筆者たちは、この全貌を取り繕う事さえしませんでした。イエスは、当時の弟子たちの考えや思いに反して、死からよみがえったのです。だから、ヨブは19章でこう語っています。

25 私は知っている。私を贖う方は生きておられ…

(ヨブ記 19:25)

私たちは覚えておかなければなりません。

神学を超えて、哲学を超えて、ポジティブ思考を超えて、「彼は活着している」と私たちが知っている事を、イエスが願っておられるのです。さらに言わせてもらえば、「彼は活着している」というその情報なくしては、私たちの信仰全部が信頼できないものになります。もし彼が生きていなければ、クリスチャンとしての私たちの人生全体が、何の価値もないものになってしまいます。だから起こった出来事の中で、世に信じさせるために、主が非常に力を入れられた事がもし一つあるとするなら、それはよみがえりなのです。言っておきますが、ユダヤ人であれ、異邦人であれ、信者であれ、未信者であれ、イエスがこの世に来て、ここで生きておられたことを疑う者はいません。彼が死んだことさえ、疑う者はいません。事実、この全てに全員が同意しています。もちろん、ある人は彼の神性を否定します。別の人、彼のよみがえりを否定します。しかし、彼がこの世に来られたことには、皆が同意します。しかしイエスは、彼の弟子たちに伝えようとされたのです。ところで、彼は最初に外に出て、世界中に言われたのではありません。実際彼は、ご自分の弟子たちのところに来て、そして言われたのです。

「わたしは活着している。」

皆さん、それを知っていなければなりません。

皆さんは死んだメシアを信じているのではありません。

神は、死んでいません。

これを彼は、世に伝えようとされたのです。

そして彼が願っておられるのは、もし、あなたがそれを信じていないなら、それが真実であると、どうして、

世を説き伏せることができるのですか？まずは、あなたが、ただ知るだけでなく、あなたが信じなければなりません。

「わたしは生きている。」

そして、ここに私たちの恵みがあるのです。

あなたと私。なぜかと言えば、イエスは言われたのです。

「わたしはこれから天に行き、それから聖霊を送る。そして、わたしはあなたがたとずっと一緒にいる。しかし、その前に、あなたがたが信じなくてはならない。わたしは生きている、ということ。」

これは、感動的ですよ！

というと、皆さんの中には、こう思う人もいるでしょう。

「ちょっと待って？もしよみがえりが日曜の朝に起こったのなら、本当に十字架刑が起こったのは、いつなんだ？」

一つ、言っておきます。

まず第一に、二通りの教えがあります。

一つは、あちこちに書かれていることに結びついたもので、「彼は“三日目”によみがえった」というものです。四日目ではなく、三日目。ちなみに、預言者ホセアもそう言っています。ですから、可能性として、イエスが実際に朝9時に十字架にかかって、午後3時に死んだのなら、その時はまだ金曜日と考えられます。そして、午後6時から土曜日が始まったときには、すでに二日目となり、土曜日の午後6時に日曜日が始まり、それが三日目になります。ですから、土曜日から日曜日にかけての夜に、彼がよみがえったとすれば、すでに「三日目によみがえった」事を成就するのに、十分です。

次に、ある人たちはこう言うでしょう。それも真つ当な事ですが、

「ちょっと待って。でも、イエスご自身が言ったじゃないか？」

39 …「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」

40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

(マタイ 12:39~40)

ですから、皆さんの中のある人たちは、

「三日三晩というなら、十字架刑は木曜日でなければ、金曜日では足りないだろう？」

と言うでしょう。それから、安息についての話が色々あるわけです。

「それは、ただの安息日なのか、それともダブル安息日なのか、大安息日なのか、大いなる安息日なのか？」面白いことに、私たちは十字架刑の日について議論することに物凄く労力を使うのに、復活の部分を完全に小さくしてしまうのです。私が個人的に思うのは、人がこんな風に言っているのと同じです。

「イエスはどこで十字架にかかって、葬られたと思いますか？」

エルサレムには、それが二ヶ所あるのです。

伝統的なクリスチャンたちに信じられている場所、聖墳墓教会。

それから、福音派の多くが信じているのは、園の墓。



聖墳墓教会（左）と園の墓（右）

私は個人的には、園の墓だと思っていますが、それは大して意味のない事です。何故でしょう？それがどこであったかなど、どうでも良いことです。考えてみてください。私たちは、イエスの死について考えるよりも、彼の復活について、もっと考えるべきです。もしイエスがまだ死んでいるのなら、私たちが墓を訪れるべきであることも理解できますよ。しかし、彼は生きておられ、墓は空っぽであるなら、どうして墓の場所について議論するのですか？墓は空っぽなのに。つまり私が言いたいのは、何よりもまず、私たちが注目すべき事は、十字架の正確な瞬間ではなく、私たちは十字架刑そのものに注目すべきで、それ以上に私たちは、よみがえりに注目しなければなりません。皆さん、しっかりと理解しなければなりません。イエスは、彼の弟子たちに言うておられるのです。

まず最初は、御使いが女たちに言いました。

6 ここにはおられません。前から言うておられたように、よみがえられたのです。…

(マタイ 28:6a)

それからイエスご自身が、エマオに向かって歩いて二人の弟子に言われました。

25 「…預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

(ルカ 24:25b)



ロベルト・ズンド画 エマオの途上

27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(ルカ 24:27)

それから、彼が天国に上げられる前に、人々にこう言われました。聖書にはこうあります。

44 …「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

(ルカ 24:44)

ですから、皆さん、理解しなければなりません。イエスは世に言っておられるのです。

「わたしは想像の産物でもなければ、偶然でもない。私は事故でもなければ、惨事でもない。わたしは、父なる神の完璧な御心を成就するために来たのだ。そしてわたしは、わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることを、全部成就するために来たのです。」

イエスはこう言いながら、問われたのです。

では、私たちは、それを聞いていたか？

マタイ 16 章とルカ 24 章の両方を見ると、——イエスと肉体的に、一緒に歩いていた弟子たちが実際に信じていなかった。彼らは本当には信じていなかったのです。ところで、イエスの敵は信じていました。とても面白いのです。それについて、私は考えていたのですが、聖書の中には、人々の言ったことが書かれています。

62 …祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、

63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる』と言っていたのを思い出しました。

64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった』と民衆に言うかも知れません。

(マタイ 27:62b~64a)

面白くないですか？イエスの敵の方が、彼の弟子たちよりもよっぽど信仰があって、よみがえりに関して、彼が言ったことにもっと注意を払っていたのです。これらの事は、とても興味深いです。このように、弟子たちは信じていませんでした。彼らは毎日イエスを見ていたのです。ヘブル書の筆者が書いている、信仰の説明について私は考えていたのですが、ヘブル書 11 章にはこのようにあります。

1 信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

(ヘブル 11:1)



カラバッジョ画 聖トマスの懐疑

考えてみてください。弟子たちはイエスを見たのです。彼らはイエスを見ていながら、それでもなかなか信じ

ることが出来ませんでした。それなら、私たちは、どれぐらいもっと信じなければならぬでしょう。考えてみてください。「信仰は、目に見えないものを確信させる」のです。イエスを信じるために、今、イエスを見る必要はないのです。なぜなら、彼を見た人たちは大部分において、彼を信じていなかったのですから。

それから興味深いのは、イエスが

「これらの事は、必ず全部成就しなければならない」

と言われたとき、——私はこの聖句を読むたびに、視聴者の皆さんに

「さあ、皆さんと一緒に言いましょう！」

と言うのです。

「必ず、全部成就しなければならない。」

イエスのよみがえりについて、福音について、皆さんにお伝えしたいのは、メシアは、あなたの感情の中にはおられません。もしあなたが、メシアが誰で、何であるかを理解したければ、それは感情でもなければ、音楽でもありません。これらはどれも素晴らしいですよ。しかし聖書、御言葉です。これこそが、彼ご自身が、皆を導いているのです。

「あなたがもし、わたしが誰であるかを理解したいなら、御言葉を読みなさい。

モーセの律法に、わたしについて書かれてある。

詩篇に、わたしについて書かれてある。

預言の書に、わたしについて書かれてある。

それを信じるかどうかは、あなた次第だ。

ただ、わたしが来る、はるか以前から、彼らはこれらのことを告げている。

そしてわたしは、これら全てを成就するために来たのだ。」

イエスは確かにモーセの律法でした。初めの初めから。真の世の光です。

創世記1章で、神は「光があれ。」と言われたのです（創世記1:3参照）。神が太陽と月を造られたのは、4日目です（創世記1:16参照）。もしそれがイエス御自身でなければ、世の光とは、一体誰ですか？ですから、詩篇72篇ではこう告げています。

「日の照る“以前”にその名はあった」

17 …その名が、日の照るかぎり増え広がりますように。…

(詩篇72:17 新改訳2017)

17 かれの名は《永遠に存し、その名は太陽の前に、すなわち太陽の照りかがやく限り堅く立たん

(黒崎幸吉著 旧約聖書略註詩篇72篇より※文末に脚注)

だから聖書では黙示録でも、最後の最後に、彼が全てのものを新しくされる、とあり、それからこうあります。

23 都には、これを照らす太陽も月もいらない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかり（メノラー）だからである。

(黙示録21:23)



クネセット（イスラエル国会）前に立つメノラー

では、詩篇はどうでしょう？16のメシアニック詩篇（※文末に脚注）は、救いの青写真がそこら中にある、驚きです。詩篇を通して、いたるところにイエスが出て来るのです。

では、預言はどうでしょう？預言者は、神との隔離について、イザヤが告げています。エレミヤは、新約聖書、解決策を約束しています。イザヤが、奇跡的な誕生を告げています。彼の初臨が拒絶されること、苦しみ、犠牲、さらにはエルサレムへの勝利の入城、再臨で戻って来られることに至るまで、この全てが預言の書に書かれています。

さらに、神ご自身が、イスラエルの民にされたことを覚えて、イスラエルの民に祝うようにと告げられている、全ての例祭の中にも、イエスは出て来ます。彼が過越しであり、彼が罪のない方—種なしのパン、私たちが学んだ通り、過越しの次の最初の日曜は、レビ記23章に書かれている初穂の祭りです。そして聖書には、第一コリント15章20節にこうあります。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえりました。

（第一コリント15:20）

ペンテコステの祭りも、成就しました。彼は、イスラエルの例祭全体を通して見られます。いくつかは成就し、いくつかは成就されつつあり、いくつかは後に成就します。つまり、イエス・キリストのよみがえりが始まりを示しているということです。“第一のよみがえり”の「始まり」です。よみがえりには、二種類あります。第一のよみがえりは、信者です。イエスが初めで、「初穂」です。それから携挙の時によみがえりがあり、それから大患難時代の聖徒のよみがえりがあります。そして最後に、旧約聖書の聖徒たちのよみがえりがあります。もちろん、これが第一のよみがえりで、第二のよみがえりは、歴史上死んだ者が全員よみがえります。聖書には、全員がよみがえり、すべての者が主の前で裁かれる、とあります。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえりました。

21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

（第一コリント15:20～22）

また、言います。彼に属する者は「すべての人が生かされる。」

23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

(第一コリント 15:23)

つまりパウロが言っているのは、よみがえりにも順番があつて、キリストが先だということです。恐らく、皆さんの中には、こう思っている人もいるでしょう。

「ちょっと待って。ラザロが先によみがえったじゃないか？」



レンブラント画 ラザロの復活

そうですよ。けれども、ラザロは死にました。ラザロは、また死んだのです。初めて死を打ち破り、死からよみがえり、二度と死ななかつたのは、イエスです。それを私たちは、ここから連れ去られる前に経験するのです。キリストにあつて死んだ者、私たちの中でも、携挙の前に死ぬ人は、それほど多くない事を願いますが、あなたもよみがえり、二度と死にません。イエスの時代以降のすべての信者、すべての聖徒で、すでに死んだ人たちは、一旦よみがえったら、二度と死ぬことはありません。ですから、第一のよみがえりは超重要です。これは三つに分けられて、初めにイエス、それから聖書によれば、キリストの来られる時、携挙の時にキリストに属している者。そしてもちろん、大患難時代の聖徒のよみがえりがあります。このようにパウロは、コリント人への手紙の一つの章を丸ごと、イエスのよみがえりに対する、私たちの信仰に関することに当てたのです。事実、これはコリント人への手紙の中でも、最も重要な章の一つです。もちろん、他にもたくさんありますが。それでも、よく考えてみると、書簡の最後の方で、彼はこのように告げています。

- 1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。
- 2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。

(第一コリント 15:1~2)

彼は言っています。

「これから、とても大事なことを言おう。もしあなたがたが、よく考えもしないで受け入れたのなら、それは

虚しい。」

3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

(第一コリント 15:3~4)

ほら、彼は“三日目”と言っています。彼はまたしても三日目と言っているのです。皆さんはきっと、思っているでしょう。

『三日目によみがえった』というのが、どうしてそれほど重要なんだ？」

何度も言いますが、イエスはいつもいつも、預言者のことばを成就するために来たのだ、と言われました。そして、イエスの来られること、それからイエスのよみがえりについて、幾度も語っている預言者の一人は、預言者ホセアです。預言者ホセアは、初臨と、それからイエスのよみがえりに関しても、実に深いことを言っています。多くの人がそれを知りませんが。ちょっと読んでみましょう。ホセア書 5章 15節です。彼はこう言っています。

15 彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。

(ホセア書 5:15)

信じられません。彼は、言っているのです。

「わたしは死んだのではない。罪びとたちが、自分たちの罪を認めるまで、わたしはただ、わたしの所に戻っているだけだ。」

この件に関しては、ホセアは明らかにイスラエルについて語っていると私は思います。ただ、彼はメシアについて語っているのです。そして彼が言っているのは、

「残念ながら彼らは、苦しみの中でしかわたしを捜し求めない」

もちろん、ここで彼は大患難、ヤコブの苦難の時について、最終的にイスラエルの全家が救われることを匂わせています。しかし、考えてみてください。神は、死んではいません。彼は言われるのです。

「わたしはここへ下りてきた。そして彼らが、彼らの罪を認めるまで、わたしはまた、わたしの所へ戻っていよう。」

面白いのが、この後すぐに、彼は次のように言っているのです。このために、パウロが三日目について書いているのが、非常に重要なのです。ホセア書 6章にはこうあります。

1 「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。

2 主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。…

(ホセア書 6:1~2)

だから、聖書が三日目によみがえることについて伝えている時、これさえも、預言者によって伝えられた事が成就したことを告げているのです。

ところでホセアは、非常に多くのことを書いています。今、一つ読みましたが、ホセアは13章14節に次のように書いています。

14 わたしはよみの力から、彼らを解き放ち、彼らを死から贖おう。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。よみよ。おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。

(ホセア書 13:14)

面白いと思いませんか？旧約聖書が、死が打ち負かされること、墓が打ち負かされることを告げていて、この全ては、イエスが来られる何百年も前に告げられているのです。そしてイエスが来られた時、こう言われたのです。

「わたしは、わたしについてモーセの律法と、詩篇と預言の書とに書いてあることを、全て成就するために来たのだ。」

預言者イザヤもイザヤ書 25章8節で次のように書いています。

8 (万軍の主が) 永久に死を滅ぼされる。神である主はすべての顔から涙をぬぐい、ご自分の民へのそしりを全地の上から除かれる。主が語られたのだ。

(イザヤ書 25:8)

「永久に死を滅ぼされる」——美しくないですか？

興味深い事に、イエスご自身が言われたのです。

「多くの人にいのちを与えるためには、まずは一人が死ななければならない。」

彼はヨハネ 12章で、肉、もしくは種について、次のように語られています。

27 今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。

28 父よ。御名の栄光を現してください。」

(ヨハネ 12:27~28a)

イエスがこのように言われたのは、実に美しいですね。

20 さて、祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシャ人が幾人かいた。

21 この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て、「先生。イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。

22 ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポとは行って、イエスに話した。

23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。

24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。

(ヨハネ 12:20~25)

彼は、豊かな実を結ぶ麦について語っておられ、これがとても面白いのです。

二日前に、ある人からヤシの木の写真が送られてきて、

「ああ、良いヤシの木だな」

と思いました。非常に若い木でしたが。そして、その人が

「アミールさん、このヤシの木、信じられませんよ。」

と言うのです。それで、

「何ですか？」

と尋ねました。すると彼は

「実は、このヤシの木に命をもたらした種は、マサダの頂上で見つけたナツメヤシで、ユダヤ人たちがマサダの上に住んでいた時代のものなんです。」

2000年前、西暦73年に、ユダヤ人はあの地で戦争に負けました。砂漠の真ん中、マサダと呼ばれる山の上です。そして、1960年代に発掘者が行った時、彼らは様々な物を見つけたのです。櫛や履物や、髪の毛、聖書の御言葉が書かれた巻物、非常に多くのコインや、その他を見つけました。そしてその中に、ナツメヤシの種もあったのです。皆さんは「ナツメヤシの種だろ？」と思うかもしれませんが、しかし、そのナツメヤシの種は、死ななければならず、その2000年後に命をもたらしたのです！すごいと思いませんか？イエスの死から2000年後でさえ、彼は、彼のよみがえりによって、それから、彼のよみがえりの力によって、彼は今日でも、あなたにいのちを与えることが出来るのです。私は、これはすごい事だと思いました。



マサダ

次に、非常に興味深い事です。皆さん、この件についてよく注意して聞いてください。いいですか？1979年5月7日のタイムマガジン。表紙ではなく、中身にこう書かれています。

「イエスのよみがえりに対する、ユダヤ人の視点」

これは、Pinchas Lapide というユダヤ人のユダヤ教神学者であり、歴史家で、更に外務省で働いていた人が書いたものです。彼はユダヤ教徒です。彼がその著書の中で、イエスのよみがえりについて書いています。彼は何と書いていると思いますか？私は感動しましたよ。超感動しました。私は、人がよみがえりの本質について再定義して否定するのを、あまりにも多く見て来ましたから。

「私は、心の底から信じている。

私はイエスに従っていないし、イエスを信じてもない。

私は彼がメシアであるとは思っていない。

しかしこれだけは言える。彼が死からよみがえった証拠がある。」

そこで人々が、彼に問い始めたのです。

「どういうことだ？あなたは、イエスが神だとは信じていない。

それなのに、あなたはイエスが死からよみがえったと、本当の本当に信じているのか？」

この手の事は、クリスチャンの中でもよくあることで、私たちは慣れていますが。人は私たちのところに来て、聞きますよね。

「イエスがよみがえったとか、そういったことを本当に全部信じているのか？」

もちろん、私たちは信じていますよ。

これは私たちの信仰が建てられている礎石ですから。しかし彼は、イエスがメシアであると信じていないユダヤ人です。その彼が、イエスがよみがえったことを信じているのです。そして、

「イエスがよみがえったと信じる証拠は何だ？」

と聞かれると、彼は言いました。

「まず第一に、よみがえりはユダヤ教の神学です。ですから、死からのよみがえりが何かおかしなことであるというユダヤ人は一人もいません。ユダヤ人の誰もが、メシアが来れば死人がよみがえる、と信じています。それはユダヤ教の神学に深く入り込んでいることです。だから、よみがえりが起こる、と信じているからといって、私が変わっているわけではありません。」

それから彼の言ったことがすごいのです。

「イエスがよみがえった時、弟子たちも女たちも、誰一人として信じなかった。」

つまり、彼はこれで納得したのです。

イエスは本当に死からよみがえったのだ、ということ、彼はこれで納得したのです。なぜなら、これは世を説き伏せようとして、新約聖書に設定された神学ではないからです。彼らのうち、誰一人として信じなかったのです。別の言い方をすれば、福音は、人間の物凄くカッコ悪い姿を見せているのです。彼らが弟子たちであったにも関わらず、です。彼らは、偉大なる光の中にはいませんでした。まったくです。彼らは、イエスのよみがえりを信じなかったのです。イエスが、彼らの真ん中に立ったのに。彼らはイエスがよみがえったことをなかなか信じられずにいたのです。そのことが、実際にユダヤ人の歴史家、神学者を納得させたのです。

「彼は、本当によみがえったのだ！」と。

福音書には、女たちが墓に行って、彼のよみがえりを発見した、と書かれていること自体、——もし立証したいなら、最初に女たちを送りませんよ。男たちを送るでしょう。ところが、女たちが先にいた。何故だと思いませんか？それが本当のことだからですよ！歴史を変えることはできません。女たちが最初にそこにいたのです。福音が正直に反映し、映し出している事が、実に深く、それがこの神学者に「これは真実に違いない」と思わせたのです。それから彼は言っています。

「弟子集団の変わりようが、イエスのよみがえりを確実に証明している。」

言い換えれば、福音を読み、そのあとの使徒の働きを読むと、全て福音書の終わりには、打ちのめされ、打ち負かされ、悲しくてボロボロの弟子集団がいます。一人は彼を裏切り、一人は恐れ、一人は彼を否定しています。これは、美しい情景ではありませんよ。それが使徒の働き1章から始まって、さらには、2章、3章…使徒の働き全部を読んでみてください。弟子集団の変化は、彼らが「生きているイエスを見た」という事実が基

礎となっているのです。覚えていますか？イエスが活着していることを、彼らが知らなかった時、理解していなかった時、彼らはガリラヤに戻り、漁師に戻ったのです。そして、何も獲れませんでした。彼らは何も理解していなかったのです。しかし彼らがそれに気づいた時、彼らは、ヨブが気づいた時のように、生ける神を信じました。

25 私は知っている。私を贖う方は生きておられ…

(ヨブ記 19:25)

「私は考える」ではなく、「私は想像する」でもなく、「私は疑う」でもなく、「ポジティブ思考」でもなく、

25 私は知っている！私を贖う方は生きておられる。

(ヨブ記 19:25)

これがクリスチャンたちの人生を違ったものにするのです。

これですよ！

「イエスのよみがえり」を知っている事。

残念ながら、世界中であまりにも多くのクリスチャンたちが囚われているのは、イエスが死からよみがえったと「私は思う」とか「私は疑う」ということです。

「イエスは私を愛している、と思う。」

「私はきっと永遠のいのちを持っている、と思う。」

「彼はきっと戻って来られるだろう、と思う。」

「彼が戻って来られると良いな、と思う。」

皆さん！聖書は告げています。

13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(第一ヨハネ 5:13)

「私は知っている！私を贖う方は生きておられる！」

これがパウロの全てを変えたのです。

それ以上に、ペテロを変え、ヨハネを変え、アンデレを変え、ヤコブを変えました。

それが、彼らを完全に変えたのです。

酷く恐れ、激しく打ちのめされて、ガリラヤに戻って漁をしていた人たちが、今や世界中で福音を宣べ伝えている。彼らはエルサレムで宣べ伝え、神殿の階段で宣べ伝え、支配者の前に立ち、祭司の前に立ち、国家の前に立ち、そして、福音を恥とは思わなかった。

福音に力があるのです！（ローマ書 1:16 参照）

もし、イエスが死んでいたなら、何の力がありますか？

その力は、彼が活着しているからこそ、あるのです。彼のよみがえりの力ですよ。

それが残念ながら、もしあなたが自分の人生をグレーエリアの中で活着しているのなら、不確かで分からないグレーゾーン、もしかしたら疑っているのかもしれないし、思っているのかもしれないし、望んでいるかも知れ

ません。それならあなたの人生で、この信じられないような変身は、絶対に起こりません。面白くないですか？イエスが生きておられる、彼がすぐそこにおられる、と、もしあなたが知っているなら、あなたは、イエスの言われることよりも、他人の言うことをもっと気にするでしょうか？人に福音を伝えて反感を持たれることと、彼らの前でキリストを否定することと、どちらをもっと気にしますか？ちょっと考えてみてください。信じられません。

聖書には、黙示録 20 章 6 節にこうあります。

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。

(黙示録 20:6a)

先ほど、第一の復活についてお話ししましたね。それは第一コリント 15 章にある通り、最初、イエスによって始まりました。彼が最初、それから、キリストに属する者全てです。だから、

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

(黙示録 20:6)

あなたは、千年王国の間、彼とともに王になりたいですか？そのためには、あなたも、よみがえらなければなりません。しかし、あなたが、よみがえられた方を信じない限り、あなたは、自分でよみがえることは出来ません。聖書は、二つのよみがえりについて伝えています。

① イエスに属する者たちのよみがえりと

② 他の世の人たちのよみがえり

です。あなたは、第一の復活にいなければなりません。そうでないと、第二の復活では、手遅れなのです。千年王国の終わりに、歴史上の全人類がよみがえります。

聖書は、

13 海はその中にいる死者を出し、

(黙示録 20:13a)

と告げています。そして彼らは、全員が主の御前に立つのです。

ですから、もし千年の間、イエスとともに統治したいなら、彼とともによみがえらなければなりません。そしてもし、彼とともによみがえりたいなら、彼がよみがえったことを信じなければなりません。聖書には、ヨハネ 11 章にこうあります。

25 イエスは言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるので

26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。…」

(ヨハネ 11:25~26a)

ちなみに、このヨハネ 11 章は、私個人的には、ここでイエスは初めて、教会の携挙について触れられているのだと思います。なぜか？それは、携挙について語っている聖句、第一コリント 15 章 51~53 節、それから第

一テサロニケ4章、どちらも、キリストにあつて死んだ者が先によみがえり、生き残っている私たちがたちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられることを告げています。つまり、キリストにあつて死んだ者たちはよみがえり、生きている者たちは決して死なない。イエスはそれを言っておられるのです。イエスは言われました。

「わたしは（つまり神は）よみがえりです。いのちです。」

言い換えれば、

「わたしはいのちを与えるだけでなく、よみがえりも与えるのだ。」

「わたしを信じて死んだ者に、わたしは、復活を与える。そしてわたしが来たときに生きている者たちには、永遠のいのちを与える。」

「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

テサロニケの人たちのようです。彼らは考えていたのです。

「パウロは最初に来た時に、私たちに教えてくれたよな？『私たちは死なない』って。でも、私たちの中に死んだ人たちがいる。」

「それなら、私たちは、この戦いに負けたのか？」

それに対して、パウロが言っています。

「望みのない人々のようになってはいけません。」

13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

(第一テサロニケ 4:13)

16 …キリストにある死者が、まず初めによみがえり、

17 次に生き残っている私たちが…

(第一テサロニケ 4:16~17 抜粋)

イエスが言われたように、

「生きていて、わたしを信じる者は、決して死なない。」

ここでの鍵は「わたしを信じなさい。」

25 …「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

(ヨハネ 11:25b~26)

ただイエスが来たことだけを信じてはいけません。彼が死んだことを信じ、彼がよみがえったことを信じてください。私たちの信仰は、十字架の上で止まってはいけません。これは、私のカトリックの友人の全員が理解してくれればと願うことの一つです。教会に入って、十字架刑を見た時、それはまるで、そこで止まってしまったかのようです。イエスはもう、十字架の上にはおられません。彼がそこにおられたのは、朝の9時から午後3時までの6時間だけです。そして彼は生き返り、それ以来彼はずっと生きています。だからその後、あの十字架には誰もいないのです。

イエスは生きておられます。

それからある文化では、マリアと赤ん坊のイエスが全てです。でも、イエスは成長されました。彼は、赤ん坊ではありません。

イエスが美しいのは、彼は成長され、メシアに関する神の御言葉すべてを成就されたところです。彼は来られ、彼は良い知らせを宣べ伝えられました。それから彼は、私たちの罪のために死なれ、そして彼は葬られ、彼は、よみがえられたのです。

私たちを象徴するものは、時に、私たちが強調するものを反映します。だから私たちは覚えていなければなりません。

墓は、空っぽです。



「ここにはおられません。よみがえられたのです。」

だから、それがどこであろうと、私にはどうでも良いのです。私は、園の墓だと思っていますよ。でも、そんなものは意味のないことです。私の信仰は、そこが基礎にはなっていません。つまり、私が言いたいのは、イエスが「わたしはよみがえりである」と言われただけでなく、イエスは全世界の目を引こうとされたのです。

「わたしは、戻って来る。」

「そして、わたしが戻って来たときに、あなたが、わたしと、わたしのよみがえりを信じていない限り——わたしがよみがえりであり、いのちだから、あなたには、わたしと何の関わりもない。」

「あなたは、自分で自分をよみがえらせる事は出来ず、教会の携挙に与ることは出来ない。」

ピリピ人への手紙で、パウロはかなり深いことを書いています。彼は、彼自身のことについて、次のように書いています。3章4節からお読みします。

- 4 ただし、私は人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。
- 5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、
- 6 その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。
- 7 しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。
- 8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさゆえに、いっさいのことを

損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。

それは、私には、キリストを得、また

- 9 キリストの中にある者と認められ、律法にある自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。
- 10 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、
- 11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。

(ピリピ3:4~11)

彼は言います。

「私にとって大事なものは、ただキリストだけでなく、彼の苦しみに与る事、それと、彼の復活の力を知ることだ。」

面白いと思いませんか？

私たちは新しい祭司で、私たちは死からよみがえり、そして今や、新しい領域で、キリストが私たちに新しい祭司に必要なものを示してくださっているのです。それがイエスというお方ですから。ヘブル人への手紙7章16節には、そう書いてあります。

- 16 その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。

(ヘブル7:16)

ということで、私が言いたいのは以下の点です。

皆さん全員につじつまが合うことを願いますが。

復活は、非常にユダヤ的であり、そして非常に聖書的です。

イエスが週の初めによみがえられたのは、預言者ホセアの預言の成就でした。

イエスは、過越しの後の最初の日曜に、死からよみがえられました。

たとえあなたが、過越しが木曜だったと信じていようと、水曜だろうと、金曜だろうと、関係ないのです。聖書には、過越しの最初の日曜が「初穂の祭り」であると書いてあります。そして、読んでの通り、イエスが眠った者たちの初穂でした。

そしてもし、あなたがイエスに属していて、彼を信じているのなら、彼が死から復活されていなければ、他の一切のことに何の意味もないことを理解しなければなりません。もちろん、イエスの人生は重要です。そして、イエスの死は必要だったのです。彼の肉がまず死なない限り、彼はいのちを生み出すことができません。しかし復活は、全てを変え、全てを独特なものにしました。ほかのすべての宗教は死んだ人を信じていますが、私たちは生ける神を信じています。

イエスは、生きておられます。

イエスは生きておられ、彼ご自身を、今日、あなたに明らかにしたいと願っておられます。彼は、彼ご自身を、今日、あなたのご家族に、友達に、あなたの国の人たちに、国に、町に、今日、明らかにしたいと願っておられます。

そしてあなたは、理解しなければなりません。

もし、彼が生きていなければ、あなたの信仰は虚しい。

もう一つ。虚しく競争を走る事、私たちの信仰が虚しくなることについて。

もし、私たちが人生を生きながら、福音を伝えないのなら、——パウロは次のように語っています。

2 …力を尽くして走っていること、またすでに走ったことが、むだにならないため…

(ガラテヤ 2:2)

つまり、私たちは主のよみがえりをただ信じるだけでなく、それを伝えなければなりません。あなたがもし、信じていないなら、あなたの信仰は虚しい。あなたがもし、伝えなければ、あなたの競走、あなたの走りは虚しい。これを理解するのは、重要です。

ですから、今日は皆さん、元気を出してください。

イエス、イエシュアは、生きておられます。

これは私たちが考え、強調すべき全ての事の中でも、最も重要な事です。

パウロが、コリントの人たちへ書簡を書いた時、彼が全章をささげたあの 15 章で、次のように述べています。

12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。

13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。

14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。

15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。

16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。

17 そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もお、自分の罪の中にいるのです。

18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。

19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。

(第一コリント 15:12~19)

もしあなたが、イエスを信じるのは、ただ単にこの人生だけだ、彼は決して死からよみがえっていない、というなら、あなたを哀れに思いますよ。私はそう思うし、彼もこれを書いた時、そう感じたのです。パウロは同じ章で、次のように語っています。

3 …キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残って

いますが、すでに眠った者もいくらかいます。

7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。

8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。

(第一コリント 15:3b~8)

パウロは言っています。イエスは、死からよみがえっただけでなく、人々が彼を見た、と。ペテロも、ヨハネも、アンデレもヤコブも彼を見た。その後、何百人という人たちが彼を見た。そのほとんどがまだ生きているのだから、行って彼らに聞きなさい！

イエスは死んだけれども、まだイエスを信じている、などと決して言うな。そんなことを言うあなたは哀れだ。彼はあなたを哀れだと感じた、彼は、あなたを残念に思ったのです。

キリストが死んだと思っている人、全てです。

申し訳ないが、それならこれらは何の意味もなくなる。あなたの人生は、ただ誰か、善人、良い教師、良い牧師、癒し手、偉大な人を信じることではありません。

彼は死んだが、私たちに素晴らしい伝説を残してくれた？

違います！

伝説には、手や足はありません。イエスは言われました。

39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。

(ルカ 24:39)

伝説は、焼いた魚を食べません！イエスは、彼らの目の前で、その魚をお食べになったのです！これは神学ではありません。これは何かの議論でもありません。これは何らかの考え方でもありません。イエス、彼ご自身が、確実に生きておられるのです。彼が生きておられる、というのと同じ保証を、彼は、あなたにも持ってほしいと願っておられるのです。彼は、あなたに知っていて欲しいのです。

あなたも、生きるのだ、ということ。

彼はまず先に、死ななければならなかった。そしてよみがえり、初穂とされました。

そして聖書には、キリストに属している者は、彼が来られた時、皆、復活する、と書かれています。彼が私たちを取り去るために、来られる時です。

そしてもし、あなたがそれを信じていないのなら、とても残念ですが、あなたの信仰全体の基盤は、虚しいものです。イエスがこの世に来られたのは、ただあなたに道と真理を与えるためだけではありません。それと「いのち」です。

彼は、道であり、真理であり、いのちです。豊かないのちです。

イエスが来て、死なれたのは、私たちが生きるためです。

それも、ただ私たちが生きている、この人生だけではありません。

今の人生は、何でもありません。

たとえもし、明日、私が死んでも、私のことで泣かないでください。私は主のご臨在の中で、踊っていますよ。

私は死ぬのではありません。私は生きるのです。私たちがここで死んだ後のいのちの確証が、私たちを他とは全く違った者にするのです。

私たちは、72人の乙女に会うために人を殺し、自爆したりはしませんよ！

そうではありません。私たちは仕えるように命じられています。

彼がそうであったように、私たちも仕える者になるために召されているのです。

私たちは、地の果てまで行って、福音を宣べ伝えるように命じられているのです。

私たちは、反対の類も差し出すように言われています。

私たちは、神を反映するものとなるために召されたのであって、私たちを天で待っているものは、肉の欲望とは違います。

私たちは、主のご臨在の中に行くのを待ち望んでいるのです。

そして、ちょうど24人の長老のように、主とともにいて、主に仕える。私は、彼らはイスラエルの12部族と12使徒を代表しているのだと思いますが、この24人の長老たちは、栄冠を受け取ると、その栄冠をイエスの足元に置きました。これは私たちが経験する事の図で、感動的な出来事だと思います。聖書には、

2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを求めなさい。

(コロサイ 3:2)

とあります。私たちは、携挙の瞬間を思わなければなりません、それだけではありません。皆、携挙を楽しみにしています。しかし携挙は、瞬く間に起こるのです。最後のラッパが鳴ると、パッと私たちはいなくなります。その後は、どうなりますか？私たちは、イエスのご臨在の中にいるのですよ！それを私たちは思わなければなりません。

私たちが考えるべき事は、私の人生はどうだったろうか。私は、彼のために、この人生をどう生きたらう。私が言った事、わたしの行いは、火で精錬されても、まだ残るだろうか？私はイエスにお返しするための、栄冠や報いを受けられるだろうか？しかし、それはまず、あなたが信じる場所から始まるのです。

その偉大さ——パウロは、ピリピ人への手紙でこう書いています。

5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、

(ピリピ 3:5)

全てが完璧だった。私は義務を果たして、教会を迫害した。

しかし、今私は、キリストを知ることに比べると、これら全てがガラクタだと思う。

それもただ、キリストを知るだけでなく、彼が十字架で死んだことを知り、そして、キリストの復活の力を知り、また、キリストの苦しみに与ることも知る（ピリピ 3:10 参照）。

これを、覚えていてください。しっかりと、覚えていてください。

あなたが、イエスの復活を信じていない限り、あなたは復活しません。

私たちは、死んだメシアを礼拝してはなりません。

パウロは、コリント人への手紙の中で、それを書いています。

申し訳ないが、あなたがもし、彼の死からの復活を信じていないのなら、あなたの信仰は全て、全く意味がない。

だから私は、復活祭の日曜日が最も重要だと思うのです。

なぜかと言えば、これこそが私たちの信仰が築き上げられる礎石になるからです。

覚えていてください。彼が、初穂です。つまり、私たちも後に続く、ということです。

次は、私たちです。

私たちは、もうすぐここから連れ去られるのです。もし、その前に私たちの中の誰かが死ぬなら、その人はよみがえります。そしてもし、私たちが明日死ねば、分かりませんが、もし、何かが起こって、私が死んだなら、私はよみがえります。私には、その確証があります。彼が来られる時、私はよみがえる。あなたにも、この確証がなくてはなりません。あなたが致命的な病と闘っておられるか、もしくはあなたの家族が何かと戦っておられ、そして、あなたによみがえりの確証がないのなら、あなたの信仰のすべての基盤は、虚しいものです。しかしもし、あなたにそれがあるなら、あなたは理解しているでしょう。この人生は、後のいのちと比べると、何でもない。聖書には、こうあります。

9 「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。
神を愛する者のために、神が備えてくださったものは、みなそうである。」

(第一コリント 2:9)

彼が、私たちのために豪邸を備えてくださっているのです。そのために彼は今、あちらにいます。ただ、御父の右で執り成してくださっているだけではありません。彼はまた、私たちのために場所を備えてくださっているのです。そして、私たちはそこに行くのです。あなたが信じようと、信じまいと。

あなたも信じた方が良いでしょう。信じなければ、あなたはそれを見られませんか。わたしの信仰は、ヘブル人への手紙 11 章 1 節です。

1 信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

(ヘブル 11:1)

祈りましょう。

お父様。イエスのよみがえりの力をありがとうございます。

それが全てを変えました。

彼は、彼について書かれている、モーセの律法と預言と詩篇の全てを成就させるために来られました。彼は死に、三日目に復活されました。彼は、彼の民がその罪を認識するまで、彼の所に戻っていなければなりません。そして彼らが、苦しみながら彼を求める時、彼は来て、彼らを救われます。

お父様、あなたに感謝します。

イエスが死からよみがえり、眠った者の初穂となりました。

この第一の復活に与る者は、幸いな者、聖なる者です。

この、よみがえりの初穂に感謝します。

大いなるイエスの死からのよみがえり、これによって私たちは、死と墓が打ち負かされたことを宣言します。それらは飲み込まれ、打ち砕かれ、なくなりました。私たちにとって、死は何の力もありません。もうすでに、対処されましたから。

私たちにとっては、もし私たちが彼のよみがえりを信じるなら、私たちのよみがえりの確証が、すでに与えられています。あなたに感謝し、今日、あなたを祝福します。このお祈りを、他にはない、最も美しいイエシュア、メシア・イエスの御名によってお捧げします。

よみがえられた主、御父の右に座しておられる方、私たちが、よみがえっているなら、私たちは見上げるべき方、私たちは確かに、背きと罪の中で死んでいましたから。

しかし、もし私たちがまだ生きている間によみがえったなら、約束されている死からの復活とは、どれほどなのでしょう。死は、アダムとエバが罪を犯して以来、ずっと起こっていることです。死が、世に入りました。

しかし、イエスに感謝します。

その死は、もはや私たちに対して、何の力もありません。

あなたに感謝し、彼の御名によって祈ります。

神の民は、全員で言いましょう。

アーメン！

アーメン！

フーッ！ワーオ！2トンの重荷が、肩から降りた気分です。

ここではサタンに勝ち目はありません。

このメッセージを発信するために、私はずいぶんと格闘しました。

色々な事が家の中で起こって、家族の中でいろいろあって、私の周りでもいろいろあって、物凄い霊的戦いでしたが、お伝えできて、本当に良かったです。

ありがとうございました。

God bless you!

ユーチューブとフェイスブックで、私たちをフォローするのをお忘れなく。

ウェブサイトから、ニュースレターをご登録ください。

Behold Israel.org です。

インスタグラムもフォローしてください。「beholdisrael」です。

ありがとうございます。

I love you! God bless you all!

ガリラヤより、シャローム！

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真・絵画出典一覧】

カラバッチョ画 エマオの晚餐：伊 1596年頃 英ロンドン・ナショナルギャラリー蔵

聖墳墓教会：Wikipedia「聖墳墓教会」

園の墓：Wikipedia「園の墓」

ロベルト・ズンド画 エマオの途上：スイス 1877年 ザンクト・ガレン美術館蔵

カラバッチョ画 聖トマスの懐疑：伊 1599年頃 独サンスーシ宮国立美術館蔵

クネセット（イスラエル国会）前に立つメノラー：ブリッジズ・フォー・ピース ティーチングレター「神の
ともしび、人類の光—メノラーの神秘—」2003年12月号

レンブラント画 ラザロの復活：オランダ 1630～1632年 米ロサンゼルス郡立美術館蔵

マサダ：Wikipedia「マサダ」

「ここにはおられません。よみがえられたのです。」：たけさんのイスラエル紀行「Garden Tomb（園の墓）」
2014.6.21

【脚注】

黒崎幸吉：Wikipediaより

黒崎 幸吉（くろさき こうきち、1886年（明治19年）5月2日 - 1970年（昭和45年）6月6日）は、日本の聖書学者、キリスト教伝道者。山形県西田川郡鶴岡町（現・鶴岡市）出身。

（書記注：日本語の聖書で、アミールさんの言っている通りの訳はないものかと探して、文語訳、黒崎注解に辿り着きました。）

メシアニック詩篇とは：牧師の書斎「詩篇の瞑想C」より

「メシア詩篇（16の詩篇）」によると、詩篇2篇、8篇、16篇、22篇、24篇、40篇、41篇、45篇、68篇、69篇、72篇、89篇、91篇、102篇、110篇、118篇がそれらにあたる。